

令和4年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

N.O. 1

学校経営 ビジョン	<input type="radio"/> 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和4年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	---

〈知 育〉

自ら見通しをもって考え、主体的に学び合う児童の育成

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	保護者評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知 育	1 授業改善による学力向上 「授業プロセス」「ICT」「学習環境」	<ul style="list-style-type: none"> 三校合同研修会を通して研修を深めたことで、主体的に考え、話し合いを通して課題解決をする児童が増えた。 ICTの積極的な活用がみられた 	3.05	3.29	3.33	<ul style="list-style-type: none"> 三校合同研修会やその後の取組等により、子どもたちの学習効果が上がり、理解を深めさせるなど、常に学力向上への取組がみられる。 三校合同研修会でしっかり取り組むことができ、さらに学力が向上することを期待する。
	2 研究の公開と検証	<ul style="list-style-type: none"> 研究を通して、児童に力がついてきたようを感じている。 三校合同研究公開を通して、研究の成果を他の学校にも周知することができた。 	3.11	3.27	3.33	<ul style="list-style-type: none"> 三校合同研修会の成果を発表することができ、児童に力がつき、よかったです。 子どもたちがタブレットを使って、理解を深め、楽しく使っていることが素晴らしい。研究授業でも、他の先生方がその使い方を熱心に見られている姿がたのもしく見えた。
	3 家庭学習・読書活動の充実 「家庭と連携した読書」「読み聞かせ」「新聞活用」	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上部の計画的な取組により保護者を啓発することができた。 新聞活用については、授業等で活用する手立てが必要である。 家庭学習については、個人差が大きく家庭との連携も必要である。 	2.65	3.24	2.75	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習や読書の取組について先生方が工夫され、提示している様子が分かった。家庭それぞれの取組、対応があり、難しいと思うが、保護者と連携を取り、しっかりと身につけさせる手立てが必要である。
	4 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 配慮が必要な児童については、特別支援教育支援員の先生方とも連携して、情報共有を行うことができた。 学級に在籍している、配慮が必要な児童への対応を十分に行うことには、職員数が限られた中で、限界がある。 	3.21	3.15	3.42	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が共通の連携を図り、情報共有している努力が伝わった。 子ども一人一人に対応され、子どもの得意とするところを褒めて伸ばす、やる気も楽しさも出るということを見ることができた。いろいろな対応に感謝している。

令和4年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

NO. 2

学校経営 ビジョン	<input type="radio"/> 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和4年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	---

〈徳 育〉	<input type="radio"/> 思いやりの心をもち、互いに認め合い、仲良くできる児童の育成
-------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	保護者 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
徳 育	1 よりよい学校づくりのための主体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当職員を中心に環境美化活動の啓発を行い、縦割り班の清掃活動の充実や、無言清掃の徹底を図ることができた。 ・ 各委員会活動で「あいさつ運動」や人権週間、給食感謝週間の取組など主体的な活動を展開することができた。 	3.00	3.41	3.60	<input type="radio"/> 学級別だけでなく、縦割り班での清掃活動の取組は、効果も幅広くよいと思う。自分たちの学校をきれいにという意識が向上することを期待している。
	2 基本的生活習慣の重点的育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「返事」「あいさつ」「整理整頓」については、個人差がみられるので、今後も継続的に指導を行っていく必要がある。 ・ 「情報モラル」については、全学級での指導や外部講師を招いての指導を行ったが、南小の課題の一つである。 	2.26	3.40	2.83	<input type="radio"/> 「返事」「あいさつ」「整理整頓」については、個人差が見られるとのこと、南小学校の課題の一つである情報モラルについては、徹底指導をお願いしたい。 <input type="radio"/> 学校の登下校での地域の方へのあいさつに個人差を感じる。今の時世で難しさもあるのだろうか。人と会ったら、必然的にあいさつが出来る子どもたちがたくさんいてほしいと思う。
	3 問題行動、いじめ、不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題行動については、共通理解を図り、全職員で共通指導を行うことができた。 ・ 不登校児童については、保護者とも連携をとりながら、状況に応じた対策を取ることができた。 	3.26	3.08	3.42	<input type="radio"/> 不登校児童について、先生方が保護者としっかり連携をとりながら状況に応じた対策をとられていることに感心した。 <input type="radio"/> 子どもたちの心に寄り添って対応していることがありがたい。 <input type="radio"/> 先生方が笑顔の多い学級づくりをされて、学校が楽しいと思う子どもたちが多いので不登校児童も少ないのだと思う。
	4 道徳教育、人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教室や人権研修を計画的に実施してきたが、言葉づかいなど今後も継続的に指導をする必要がある。 	3.05	3.18	3.25	<input type="radio"/> 子ども同士の言葉づかいで傷ついたり、いやな思いをしたり、よくあることだと思う。子どもたちに理解させることは難しいかもしれないが、指導をお願いしたい。

令和4年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

N.O. 3

学校経営ビジョン	<input type="radio"/> 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和4年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
----------	---

〈体 育〉	<input type="radio"/> 自分のめあてをもち、粘り強く体を鍛える児童の育成
-------	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	保護者評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
体育	1 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上プランに基づく取組を行い、体力も徐々に向上去っているが、柔軟性に課題がみられる。 立腰指導については、共通理解を図り、指導を行うことができたが、学年が上がるにつれ、立腰の意識が低くなつて行く傾向がある。継続的な指導が必要である。 	2.83	3.36	2.83	<input type="radio"/> 体力の向上とともに、けがをしない柔軟な体づくりの必要性を感じた。 <input type="radio"/> コロナ禍の中では、体力向上を図る取組など難しかったのではないか。 <input type="radio"/> 立腰指導は、高学年になると意識が低くなる傾向にあるそうだが、ボランティアとして1年生の授業に関わるなか、先生方は、徹底して丁寧に指導されており、入学時よりよくなっている。 <input type="radio"/> 授業開始のチャイムが鳴ると子どもたちは全員席に着き、日直が「立腰」と声をかけると黙想し、姿勢を正す姿が参観するたびに見られる。先生方の時には厳しく、そして一人一人に対応されている指導の成果だと思う。
	2 家庭と連携した健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍もあり、フッ化物洗口は継続的に実施することが出来なかった。 むし歯の治療勧告も定期的に行つたが、治癒率100%の達成は出来なかった。 1月末現在(60.6%) 	2.61	3.21	2.40	<input type="radio"/> 体力向上の取組と同様、コロナ禍の中では、家庭での健康教育はより難しいことだと思う。
	3 感染症対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、マスクの着用、教室の換気など、共通理解を図り、感染予防対策を実施することができた。保護者へも感染拡大防止への協力を積極的に発信することができた。 	3.16	3.42	3.33	<input type="radio"/> 手洗い、マスク、教室の換気など、しっかりと感染症対策がなされている。 <input type="radio"/> 感染症対策が徹底されている。これからも継続が大事である。
	4 危険を回避する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種避難訓練などの防災、安全指導を計画的に実施することができた。廊下歩行等、身近な危険予知能力など意識を高めていく必要がある。 	3.05	3.32	3.50	<input type="radio"/> 避難訓練などの実施により、自分の命は自分で守る意識をもっと高める必要がある。 <input type="radio"/> 学校に行ったときも廊下を走っている子どもはあまり見たことがない。日頃から意識をもっていることが分かる。

令和4年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4 : 期待以上 3 : ほぼ期待どおり 2 : やや期待を下回る 1 : 改善を要する

N.O. 4

学校経営 ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和4年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	---

〈食 育〉 ○ 望ましい食習慣や食生活の安全に心がけ、命を大切にする児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	保護者 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
食 育	1 食に関する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と連携した体験活動や学校栄養職員を招いた外国語の授業や給食参観など食に関する指導を実施することができた。 ・ 給食主任や養護教諭が学級担任と連携して給食時間のマナー指導を行うことができたが、偏食等今後も指導を継続していく必要がある。 	3.16	3.43	3.33	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域（地元）と連携した活動やマナー、食の大切さを学ぶことが大切である。今後もたくさんの体験や学びを期待している。 ○ 食事のマナーについては、とても大事なことなので、指導の継続を希望する。同時に作っている人への感謝の気持ちも忘れないでほしい。
	2 自らの食を意識す る活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「弁当の日」も家庭の協力を得て、計画的に実施できた。 ・ 食に関わる人に感謝する活動については、給食委員会を中心に動画を作成し、調理員の方の働く様子を全校児童に分かりやすく紹介することができた。 	2.86	3.45	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食感謝集会における動画編集など素晴らしい取組だと思う。 ○ 食に関わる人たちに感謝する活動はとてもよい試みである。
	3 給食指導と食事マ ナーの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護教諭を中心に食物アレルギー研修を定期的に実施したことにより、全職員で当該児童への適切な対応を行うことができた。 	3.79	3.40	3.67	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生方の努力でアレルギー児童への適切な対応ができている。 ○ 対応は大変なところがあると思うが、全職員で適切な対応ができていることがすばらしい。

次年度の方向性に についての校長所見	<p>1 本年度の取組について 本年度も、コロナ禍の中での学校運営を余儀なくされたが、保護者や地域の方々の理解・協力をいただき、感染症対策を講じて可能な限り学校行事や教育活動に取り組み、「知」「徳」「体」「食」において成果を残すことができた。特に本年度は小林中校区の研究公開を実施し、研究の成果を発表することができた。</p> <p>2 次年度への改善に向けて 次年度は、Wi + hコロナの考え方で保護者、地域と連携を図りながら教育効果を上げる取組を進めていきたい。特に、家庭学習やICT活用に関しては、タブレットの持ち帰り等も含め、今まで以上に保護者と連携を図り、児童の学力向上につなげていきたい。</p>
-----------------------	---